



本校の歴史その12:「開校記念日」

No.21 木村理事長・学院長 平成23年度公式メッセージ
(平成23年6月2日アップ)



本校の歴史その12
「開校記念日」



- ・ 私は今大変忙しい。それは通常の執務以外に90年前の本校の設立時代のことを勉強しているからである。あっちの資料を読んだり写真を探したり大変だ。どうも図書室を移動させた時にばらばらになっている可能性もある。
- ・ 教務部長が何処からか貴重な資料を持ってきてくれたのが大変助かっているが、このような大切なものが何故印刷場のロッカーに有ったのだろうか。今は私が個人で管理している。紛失しては大変だからである。
- ・ 前にも書いたが来年度には「90年史」の編纂に入りたいと思っている。そのためにはまず自分自身が「本校の歴史」を知らなければならない。いい加減な周年誌を作る積りはない。
- ・ 「校舎を全面的に建て直す」のであるからこの「建設の状況」も記録に残さねばならない。50年、60年後の人々がこの周年史を見れば「全てが分かる」ような90年史を作りたいと思っている。
- ・ 私は今「周年誌編纂のメンバー」を誰にするか静かに考えているところだ。頭が切れてセンスの良い人材を投入したい。この作業には高い評価を与えたいと思う。それくらい「価値ある仕事」であるからだ。
- ・ 私の時代に「100年史」は恐らく無理かも知れないから「90年史」を充実したものにしておけば100年史の校長さんは助かる筈である。このように10年ピッチで学校は、まとまっていくから10年先のことを考えて今の校長は仕事をしておけば良い。それが今、働いている校長の責任である。
- ・ それに平成19年から始まった「浪速改革」は余りにも大きい。「多聞尚学館」「ふくろうスタジアムの完成」「浪速武道館」と教育トライアングルを完成させた。実はこのようなハードだけではなく「教育の中身」も大きく変えた。
- ・ 「神道教育関係」も大きく変えた。自前のテキストを完成させ、「学院神社拝詞」と「浪速生活の綱領」を作成した。神社神道の学校で今までこのようなものがなかったことさえ私には信じられなかった。
- ・ 何よりこの4年間で教職員が大きく入れ替わった。世代交代が大きく進み校内は若い先生方が走り回って活気に溢れている。部活動も従来の学校にはないような大きな資源を投入した。中学校も高校も生徒が増え今や府内の私立でも大きな学校に成長した。
- ・ 入試広報室を作って人材を投入した。広報宣伝には大きな資源を投入した。要は形を作ったのである。校長ブログを発信し「学校を公開」した。そして「説明責任」を果たして来たのである。
- ・ しかし今ようやく「一息」した時に私は逆に「先行きが無性に心配」になってくるのである。「今のままで良いのか」「次に進むべき道は何か」等々考えが巡ってくるのである。それが私の「本校の歴史を勉強する」動機に繋がっている。
- ・ 新校舎の後は「何を目標にしたら良いのか」という疑問だ。平成26年から又少子化の階段は急激に勾配をきつくする。今の学校幹部は恐らく残ってしまい。新たなトップ集団で学校を引っ張っていくことになるが、果たして「それは誰か？」など考えたら悩ましいのだ。
- ・ 「歴史を尋ねる」とは原点に回帰し「今を反省する」ことである。時とともに人間は気づかずに「本家本元から大きく逸脱」していくものである。「初心忘れるべからず」とはこういうことだし、「温故知新」とは原点を忘れるなどと言う戒めであろう。
- ・ 前にも書いたが今私は創立日をどうするか悩んでいる。31日の理事会で議論したが継続審議となった。ところが大正時代の本校には創立記念日と言う概念はなかった。「開校記念日」であった。
- ・ 教務部はそれを知らずに学校行事に創立記念日と平気で書いている。昔は開校記念日に授業をしていたことも知らないだろう。最初の授業が成された日が5月1日だったのである。
- ・ それは大正12年4月30日に初代校長事務取扱の大島鎮治先生は、沢之町の使われなくなった旧工場を借りて仮校舎とし、入学式を行った。そして最初の授業が翌日の5月1日であったのである。

- ・ 1年後その後を引き継いだ初代校長の大里猪熊先生は早速大正13年5月1日にこの日を「開校記念日」として式典をされている。如何に関係者の浪速中学校設立へのご苦勞があったか容易に想像できるだけに最初の授業の日はさぞ感激であったろう。だから1年後に5月1日を「開校記念日」としたのである。
- ・ 歴史的経緯は以下の通りであった。参考資料として私は「記念帖」(卒業アルバム)を調査した。その結果5月1日は創立記念日ではなくて開校記念日だったのである。記載事項を転記すると:

大正12年4月30日 東成郡墨江村假校舎ニ入學式ヲ行フ

5月1日 授業開始

大正13年5月1日 「初代大里猪熊校長開校1周年記念式ヲ行フ」

大正14年5月1日 記念日 野田博士の講演ヲ聴ク

大正15年5月7日 嘉納治五郎氏ノ講話ヲ聴ク

昭和2年 5月1日 第四回開校記念日(式ナシ)

昭和3年 5月1日 開校記念日 濱谷氏ノ講演アリ

昭和4年 5月6日 開校記念式、御親閲教練豫行ノ為メ城東練兵場ニ赴ク

昭和5年 5月1日 第七回開校記念式舉行

昭和6年 5月1日 第八回開校記念式大島先生(創立當時ノ校長)懷舊訓話

- ・ 「原点を回顧」とはこういうことだ。その作業の過程で様々な思いが去来するし「気づかされる」のである。来年度から本校の公式文書においては5月1日を開校記念日と書くこととすることが先の理事会・評議員会で決定されたのである。